



ASSOCIATION FOR RENGEIN TANJOJI
INTERNATIONAL COOPERATION.

認定特定非営利活動法人
れんげ国際ボランティア会

みろくの風

Vol
78



インド・アーグラの子ども達
初めて見る日本人を温かく迎えてくれました。

けんじょうりゆうすい じゅおんこくせき
仏教經典に『懸情流水 受恩刻石』
という言葉があります。これは「情
を懸けしは、水に流し、恩を受け
しは石に刻むべし」という意味で
す。日ごろから私達もこのように
ありたいものです。

当会アルティックの各種活動の
根底にはこの「流水刻石」の哲学
があります。「刻石」の点でいえば、
敗戦時焦土と化し餓死する人々さ
えいるさ中、様々な国々が日本に
救いの手を差し伸べてくれました。
ララ物資、ガリオア・エロア資金
はその代表です。また、近年の大
災害の際にも世界各国が支援して
くれました。これらの恩はいつま
でも忘れてはならないと思います。
また、「人への施しはいずれ自分自
身への施しになる」ものだとも仏
教では教えています。

どんなに遠い場所でも空は繋
がっている。同じ空のもと、いろ
いろなご縁が繋がって世界は成り
立っている。手助けできる時は手
助けをし、必要な時があれば助け
てもらおう。

(近きも遠きも、国内も世界も、現
在も未来も)

インドの未来のために

事務局長・久家誠司

れんげ国際ボランティア会は活動を開始しておよそ45年になります（一九八〇年設立）。その始まりはカンボジアでの内戦による難民の発生に起因します。ときの共産政権は知識層への憎悪により、

支援を始めたかご存じでしょうか？ 答えは一九五四年からです。なんと70年も前のことです。

資本家、医師、教師、その家族、はては僧侶たちまでも惨殺しました。殺戮から逃れるために多くのカンボジア国民が国を捨て、あてもなく海外に逃

アジア太平洋地域の国々の経済や社会の発展を支援する協力機構で「コロナボ・プラン」というものがあります。これは第二次世界大戦後

れました。この難民に対して国連機関や各国政府、NGOなど多くの組織が支援の手を差し伸べました。当会もアジアの同胞を救済すべくタイなどに作られた難民キャンプにおいて支援活動のお手伝いを始めました。

日本はその4年後つまり一九五四年には政府開発援助（ODA）として参加しました。正式加盟国の一員として、研修員の受け入れや専門家の派遣といった技術協力を行いました。国内主要地域が焦土と化した敗戦からわずか10年足らずで、貧しく困難な海外

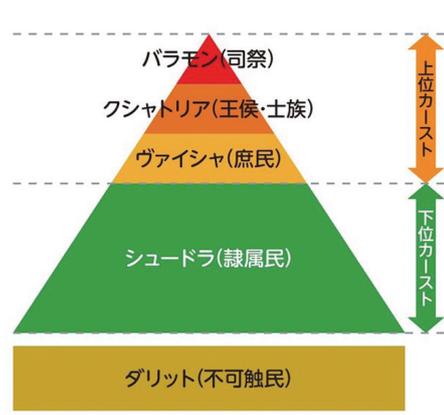
域に支援の手を差し伸べたことは驚嘆に値するとともに、

さで、ご存じのように、現在れんげ国際ボランティア会はインドでの支援事業に力を入れています。インドを巡っては中国に代わる世界経済の成長センター、生産拠点として注目されています。「発展目覚ましい」などと形容されてはいますが、

誇らしくもありません。日本はその後、時には世界でもトップドナーとなつて国際協力を進めてきました。そのようなこともあつてか、東日本大震災の際には日本に支援をしてくれた国々は一七九カ国・地域にものぼりました。



さて、ご存じのように、現在れんげ国際ボランティア会はインドでの支援事業に力を入れています。インドを巡っては中国に代わる世界経済の成長センター、生産拠点として注目されています。「発展目覚ましい」などと形容されてはいますが、内実は様々な問題も抱えています。アジアの中で、いえ世界の中でもその存在感が増しているインドのことを少し紐解いてみましょう。今年、インドの人口は14億3千8百万人、中国を抜いて世界一となりました。インドの公用語は英語とヒンディー



カースト図

語で、他にも憲法で公認されている州の言語が21言語もあります。宗教においては、ヒンドゥー教徒79.8%、イスラム教徒14.2%、キリスト教徒2.3%、シーク教徒1.7%。まさに多様性の国と言えます。ところで、確かにインドは経済発展によりGDPが上がっている程度所得は増えたものの、実は富の9割近くを人口のわずか1割の人々が持っています。つまり、富の再配分がうまくいっていない。「富の偏り」があるのです。そのため国民の半分以上が低所得層で貧困に喘いでいます。また、保険医療、社会福祉、

生活環境、女性蔑視などなど問題は山積です。

さらに、皆さんも一度は聞いたことがあると思いますが、インドで最も大きな問題の一つに「カースト制度」があります。実は70年以上も前から憲法でカースト制度は否定されています。しかし、残念なことに現在でも

厳然と存在しています。今でも使える名前と使えない名前があったり、名前による差別もあります。学校教育や職場においても格差や差別に悩まされ、就労においても就けない職業があったり、能力は有っても要職に就けないこともしばしばです。

ただし近年では、ハイカーストを中心にルールに縛られない命名をする流れもあります。また、若い人たちの間では全然関係ないという意識を持った人達も現れています。さらに地域によっては差別を

する風習が少しずつ減ってきているところもあるようです。これらの大きな要因としては、ネット社会という情報の発達があります。問題もあるネットですが、良い情報、良いムーブメントが広がっていく役に立っているようです。



さて、私達れんげ国際ボランティア会はこのカースト制度の真つただ中にあるアーグラ市の地域において、各種事



地元住民とのディスカッションの様子

業を行っています。

この地域は、「ダリット」と呼ばれるカースト外の人々（カーストの中にさえ入れず、触るとけがれると蔑まれる人々）の居住地域です。そこで、左記のような支援事業に取り組んでいます。

①なおざりにされている学校設備の充実
(トイレや教室などの整備)

②命の源である水資源の回復
(ドブ池の浄化)

③ごみ問題や生活に関わる衛生問題の解決
(排水設備、ゴミ回収システム)

④コミュニティの啓発活動
(コミュニティセンター建設)

⑤地域活動・自助自立の育成
(自分達の住む場所は自らで良くしていく、ワークショップの開催)

⑥地域の問題・課題を自分達で解決していく
(最終目標)



地元スタッフ達とのワークショップの様子



アーグラでの衛生・環境授業の様子

「お釈迦様」がやってきた

インド事業担当 伊藤 祐真
(現地パートナー視察招聘事業)

私達NGOが現地で各種事業を行う際、勝手に活動を行うことはできません。その国の伝統、文化、慣習に即した活動でなければ本当に良い事業はできないからです(時には反発さえ招いてしまいます)。そこで必要になってくるのが信頼できる現地のパートナーです。幸いにも当会は、経験と実績があり、高い理念とビジョンを持つ団体と協働することができています。このたびは日本の先駆的技術を視察してもらうためにその団体のスタッフを招聘することとなりました。

シダース氏とインドでの支援事業

当会は現在、インド内のチベット人居留地の水・衛生施設を拡充と、タージマハルで有名なアーグラ市の貧困地区での学校校舎改修の二つの事業を行なっています。それを実行するため、CURE(キュア)というデリーの民間NGOと協働しています。当会ではこの十一月、その副所長シダース氏を日本に招き、玉名を始め県内の各種施設を訪問し、教育や福祉、そして環境、衛生といった



アーグラでの学校建設の進捗状況の確認
(筆者・伊藤、事務局・久家)

多岐に亘っての日本の先進的状況を視察し、研究して貰いました。ところで、今回の研修者の名前の「シダース」は日本語での発音こそ少し違いますが、お釈迦様の名前シッダールタと同じです。お釈迦様一族の子孫なのかも知れません。柔和な顔と知的で静かな語り口。現在四十五歳。大学卒業後、州政府の公務員を八年勤めたのですが、人々に直に接して、その役に立つような仕事をしたくて、現在の開発NGOで働くこととなりました。



先生達と建設の趣旨や将来の利用方法などのディスカッション

玉名・熊本での視察訪問

五泊の滞在で、蓮華院誕生寺の本院や奥之院、地域の中学校や福祉施設、インド人の研修生が働く農場、リサイクルプラザ工場、さらに水俣の熊本県環境センター、阿蘇の白川水源などを視察しました。シダース氏は視察中には終始タブレット端末を携行し、詳しいメモや撮影をして、その熱心な態度は招待の甲斐があるものでした。

地域の中学校では、生徒たちが自ら行なう給食の配膳や後片付けを、実に興味深く見ていました。インドの学校ではそんなことは全くしないのです。

水俣の熊本県環境センターでは、ゴミの細かい分別、ゴミを集めて現金化する試み、廃棄物に対する3つのR、リデュース(減らす)、リユース(再利用)、リサイクル(資源として再利用)の実践に特に興味を示し、説明した担当者に熱心に質問していました。インドは人口が世界一ですが貧困者数も多く、どこもゴミが溢れて衛生環境が悪いのです。「日本のシステムをインドで普及させ、きれいな環境にしたい」との強い願いを持っています。

阿蘇の白川水源の物産館でのことです。彼は目ざとく土産物



シダース氏、各種福祉施設視察の様子

の売店の織物工房を見つけました。そこは修学旅行生などの観光客に織物教室を開き、小さな卓上織機で簡単な織物を作るところでした。彼の狙いは、これをインドの貧しい人々に教えて、観光地の壁掛けなどの土産品を作れないか、ということでした。現在学校の改修事業を行なっているアーグラの貧困地区の住民の生活費は、月に二〜三万円なのです。彼の強い熱意が伝わってきました。

最後に熊本で買った奥さんへのお土産は、ユニクロのセーターでした。



シダース氏、阿蘇の水源視察

自助なきところに支援なし (清潔なまちづくり活動の実施)

れんげ国際ボランティア会事務局

このたびインド・カルワリ地域において、村人自身の手で清掃活動が行われました。自分の家の周りをちょこちょこと清掃することは有りますが、村全体が力を合わせて大々的に行うことはこれまでありませんでした。支援の基本として「自らが考え、自らが動くようにならないければ、現地の未来は拓けない」と考えます。私達支援者はサポーターとして、現地の行動変容を促すことが最も重要であると考えています。

上から目線で言うわけでは
ありませんが、事実インドは
お世辞にも衛生的と言える環
境ではありません。特に私達
が訪れるカルワリ地域では、
いつの間にか空き地にゴミの

現在、観光やビジネスでの
目的により世界中から多くの
人々が日本を訪れています。
その訪日外国人の皆さんが「日
本に来てとても驚いているこ
とがある」ということがテレ
ビやマスコミでよく報じられ
ています（最近この手の報道
やテレビ番組が多いですね）。
様々な驚きの中でも、上位に
来ているのが日本の持つ「清
潔感」です。整然とした街並
みをはじめ、街中のゴミの少
なさ（殆ど落ちていません）、
公衆トイレの清潔感等々。今
回招聘したインドからのス
タッフも同じ感想でした。



清掃活動の様子 1

山ができてしま
います。当会は
このカルワリ地
域において学校
の整備やトイレ
作りを行ってい
ますが、常に住
民に対して意識
改革、「気づき」
を促すことを必
須としています。



清掃活動の様子 2

さて、その一環として、こ
のたび現地協力団体のキュア
(CURE)を通して啓発と清掃
活動の実施に取り組みました。
まず学校では(1年生から8
年生までの二五〇人以上の生
徒)衛生・清潔・環境のための
授業を行いました。生徒達は、
プラスチック使用量の削減、
廃棄物の分別、固形廃棄物の
管理、環境に優しい廃棄物管
理のための3R(リデュース、
リユース、リサイクル)や、
その他にも衛生・清潔の重要

性とその実践について教育を
受けました。
また、カルワリ地域では住
民による清掃活動が行われま
した。これには校長先生、教師、
村民、学生など地元の方の多く
の関係者が参加・協力をしました。
これらの活動は、村人はもち
ろん様々な地元地域の関係者
との詳細な話し合いを経て計
画されたものです。

この取り組みのポイントは
村人や関係者の意識啓発とコ
ミュニケーションの促進にあ
ります。今後さらにこのよう
な教育と実践を繰り返すこと
で、村全体に清潔さを維持す
る責任感が生まれ、住民主体
の話し合いや清掃はもろろん、
長じては村全体の向上のため
の「自助自立」が生まれてく
ることと思います。



村での啓発活動の様子

あなたのご寄付は、困難な状況にある人のために使われた後に
あなたのもとへ戻ってきます！！

(3万円寄付すると最大で14,000円が戻ってきます)

当会は厳しい審査を受けた「認定NPO法人」です。
 よって当会へのご寄付は**税金控除**の対象となります

●個人の場合

①所得税 (寄付金額-2,000円) × 40% (税額控除型)
 ※但し所得税の金額の25%が限度です。

②住民税 (寄付金額-2,000円) × 10%

例えば、30,000円ご寄付頂くと①と②で最高**14,000円**が戻ってきます。

●法人税の場合 (特別損金として算入することができます)

～個人、法人ともに控除のためには確定申告が必要です。
 詳しいことは最寄りの税務署や税理士さんにご相談ください～

◆◆ご寄付のお願い◆◆

- ①インド貧困地域の学校などの整備事業 1口 : 5,000円
 学校の教室やトイレの整備、住民のための飲み水整備、衛生設備支援
- ②チベット難民支援 1口 : 5,000円
 チベット語の物語や副読本作成などの文化支援 (日本の昔話のチベット語翻訳本は大変人気です)
- ③おまかせ募金 1口 : 5,000円
 ニュースレターの作成やネット環境の整備など、会を下支えするための大切なご寄付です。

※ゆうちょ銀行のオンライン振込でラクラク送金

**オンラインでも
 ご寄付いただけます**

銀行名	ゆうちょ銀行
預金種目	当座
店名	一七九(イチナナキュウ)店
口座番号	0107858

このニュースレターは(認定NPO法人)れんげ国際ボランティア会の季刊誌です。名刺の交換をさせて頂いたり、その他ご縁のあった皆様に、アジアの情報や当会の活動をお伝えするために、お送りさせて頂いております。ご不要の方はその旨お知らせ頂ければ送付を止めさせて頂きます。もし差し障りがなければお付き合頂ければ幸いに存じます。

第78号 2025年(令和7年)1月

季刊 / みろくの風(れんげ国際ボランティア会会報)
 発行人 / 川原英照
 住所 / 〒865-0065 熊本県玉名市築地2288
 電話 / 0968(73)4851

◇各種お問い合わせ◇
 (認定NPO法人)
れんげ国際ボランティア会
<http://reng.e.asia>
 e-mail artic@reng.e.asia  [@reng.artic](https://www.facebook.com/reng.artic)